

# 中美研会報 No. 142

2018.3.15 中越美術教育研究会 事務局／長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959 印刷／(株)中央印刷

## 県美大会へのご協力に感謝

中越美術教育研究会 会長  
立川 厚生



当研究会は、中越地区の幼稚園、保育園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校から、多くのご支援をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。事業の開催にあたっては、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からご後援をいただき、また新潟日報社や新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部から多大なご援助をいただき、誠にありがとうございます。

今年度は、8月に「第31回新潟県美術教育研究大会中越大会」と「夏季研修会」を兼ねて開催し、12月に「教職員美術展2017」、1月に「中越教育美術展」を行うことができました。また、「中越教育美術展作品集」を刊行し、この「会報」を発行いたしました。会員の皆様の工夫と努力、協力のお陰で、充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

今年度の事業の成果の一つは、「第31回新潟県美術教育研究大会中越大会」を開催できたことです。本大会の開催にあたり、会場提供やご支援をいただきました新潟県立近代美術館、長岡造形大学、長岡市、長岡市教育委員会をはじめ、各後援団体、下越美術教育研究会、上越美術教育連盟、高等学校教育研究会芸術部会の皆様に厚くお礼申し上げます。

148名の参加者がかかわり、情報がつながり、各自の今後をみつめる大会になりました。皆様の主体的な取組に心から感謝申し上げます。

本大会では、新潟県立近代美術館や長岡造形大学などを会場に活動公開を行い、「社会に開かれた教育課程」の実現に一步踏み込みました。鑑賞活動においては、指導者が事前に学芸員との協議を重ね、子供たちの質の高い学びを引き出すための連携を図りました。千秋が原ふるさとの森アトリウムでは、植物園の天井の高い空間を生かしたインスタレーションを行い、作品は大会後も同会場を訪れた一般市民に見ていただくことができました。このように、地域の人的・物的資源を活用し、学校外に発信する機会と

もなりました。

「審議のまとめ」には、「新しい教育課程においては、『義務教育段階を終える段階で身に付けておくべき力は何か』、『高等学校卒業の段階で身に付けておくべき力は何か』という観点から、各学校段階で育成を目指す資質・能力を相互につないでいくことが求められる。」とあります。本大会で、保・小・中・高のそれぞれで活動公開を行い、インスタレーションにおいて、小学生から大学生までの異年齢の子供たちが、協働による制作活動を展開したことは、学校段階間の接続を考えるきっかけともなりました。

新学習指導要領の図画工作科の改訂の基本的な考え方と中学校美術科の改訂の具体的な方向性に共通するのは、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成することです。本大会の活動公開では、表現4コマ、鑑賞3コマで提案を行いました。美術館を活用した鑑賞活動を表現と関連させた取組や保育園児の美術館での鑑賞活動など、表現と鑑賞の関連を考える上で、今後の参考になる内容でした。指導・提案をしてくださった先生方に敬意と感謝を申し上げます。

「造形五・十の市」は、昨年度のプレ大会の規模を拡大し、下越・上越の先生方からも実践発表をしていただきました。多種多様なユニークな題材や材料、そして子供たちの生き生きと造形活動を楽しむ姿が紹介されました。ポスターセッション形式による参加者との身近な交流により、主体的・対話的で深い情報交換の場となりました。ここでのつながりが、さらに広がっていくものと期待が膨らみます。個性豊かに創意あふれる提案をしてくださった28名の先生方に心からお礼申し上げます。

講演会では、聖徳大学教授 奥村高明様から、「新学習指導要領における図工美術教育」と題して、新学習指導要領のポイントを豊富な具体例を基に分かりやすくご教示いただきました。結びに、「子供をかけがえのない存在にできる、一人一人が主体的で対話的で深い学びをする存在である子供たちを、そういう子供たちにできるのは、先生たちです。かけがえのないのは、今ここに座っている皆さんです。」と締めくくられ、大きな力と希望や勇気を与えていただいた思いがし、心が温かくなりました。

多くの皆様のお陰で、大変有意義な大会になりましたことに、改めて心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 平成29年度 中越美術教育研究会 事業内容

### ●第1回 研究部会

・平成29年5月1日(月) 上組小学校  
県美大会の内容検討

### ●第1回 理事会・代議員会

・平成29年5月18日(木) アトリウム長岡  
会務決算報告・予算事業計画審議等

### ●第2回 研究部会

・平成29年7月14日(金) 上組小学校  
県美大会の内容検討

### ●「第31回 新潟県美術教育研究大会中越大会

兼第50回 夏季研修会」

・平成29年8月18日(金)  
長岡造形大学 他  
・参加者148人

### ●第1回 美術振興部会

(中展展委員会・広報委員会)

・平成29年9月4日(月) 上組小学校  
審査会計画・作品集・会報原稿依頼等

### ●教職員美術展 第1回 実行委員会

・平成29年9月4日(月) 上組小学校

### ●中展展 1次審査会

・平成29年11月14日(火) 上組小学校  
1次審査員33名

### ●中展展 2次審査会

・平成29年11月22日(水) 上組小学校  
群馬大学 林 耕史 教授  
新潟大学 丹治 嘉彦 教授  
東京学芸大学 西村 德行 准教授

### ●第2回 中展展委員会

・平成29年11月22日(水) 上組小学校  
展示・授賞式計画等

### ●第2回 広報委員会

・平成29年11月22日(水) 上組小学校  
展示・授賞式計画等

### ●「中越教職員美術展2017～第23回～」

・会期 平成29年12月20日(水)～24日(日)  
長岡市美術センター  
・出品点数 64点  
・入場者数 598人

### ●「第53回 新潟県中越教育美術展」

・会期 平成30年1月11日(水)～14日(日)  
長岡市美術センター  
・入場者数 2,819名  
・応募点数 23,729点 展示点数 724点  
・特別賞授賞式 平成30年1月14日(日)

### ●第3回 広報委員会

・平成30年2月22日(木) 上組小学校  
中美作品集の校正

### ●第2回 理事会

・平成30年3月6日(火) 上組小学校  
各事業の反省と次年度への提言

### ●「第53回 新潟県中越教育美術展・作品集」の発行

・作品集 第27集 発行  
・中美研会報142号 発行

# 第31回 新潟県美術教育研究大会中越大会の概要



大会実行委員長 小林 学

## 1 はじめに

今私たちは、予測不可能な社会を迎え、なかなか解決しがたい多くの課題を抱えています。そんな状況の中で、時には個々人で、時には協働的に、一見意味をもたないものから意味や価値のあるものを創り上げる造形活動の役割は極めて大きいと考えます。さらに、美しいものに感動を伴って気付き、そこに喜びを見いだして心豊かに生きていくことにおいて、その基となる豊かな感性を育む造形教育は、今このような時期だからこそ一層重要視されてきていると考えます。

新学習指導要領では、子供たちに必要な資質・能力を育むための学習過程の在り方として「主体的・対話的で深い学び」の実現を求めています。本来、造形活動は主体性を重んじる活動であり、材料や対象、仲間など<ひと・もの・こと>とのやり取りの中で行われる活動です。これまで造形教育において重視してきた授業づくりの視点に共通しています。特に、「深い学び」で求める「『各教科特有の見方・考え方』を働かせること」については、造形的な見方・考え方を働かせ、広げ、深めて、更新し続けるという私たちが大切にしてきた取組と合致します。

未来を力強く、心豊かに生き抜く子供たちを、さらによりよく育む造形教育の創造に向けて、大会テーマを次のように設定しました。

## 2 大会テーマ『HIRAKU』

大会テーマの『HIRAKU』には、“ひらかれた学校・ひらかれた教育の中で、子供たちが自らをひらいて活動し、自らのよさや可能性を大きくひらかせ、充実した人生と新しい時代を切りひらく”という願いが込められています。

副題 ～かかわり つながり みつめる～

大会テーマ『HIRAKU』に込められた願いの実現を目指し、「かかわり つながり みつめる」学びに着目し、これを副題としました。

「かかわり」とは、子供一人一人が<ひと・もの・こと>と主体的にかかわることです。自らの思いをもって、対象と結び付いていくことです。子供がこれまで手を動かし、肌で感じて獲得した自己の経験とそこで培われた見方・考え方を基に、さらに<ひと・もの・こと>と主体的にかかわりながら意欲や想像を膨らませていくことです。

「つながり」とは、感性を刺激し、見方・考え方を広げ、深めるために、<ひと・もの・こと>とそれぞれの特性や強みを生かしてつながることです。ある時は「かかわり」をより活発にし、ある時はより深く「みつめる」ことを促進します。

「みつめる」とは、造形の新たな価値の創造に向け、<ひと・もの・こと>、そして自分自身を深く見つめることです。<ひと・もの・こと>との「かかわり」、「つながり」の様態が「みつめる」深さに大きな影響を与えます。

「かかわり」「つながり」「みつめる」には、順序性はありません。互いに作用し合いながら、自分の世界を広げ、自分らしい価値を創り続けます。このことを実現し続けることが、自らを開いて造形表現に入り込み、自らのよさや可能性を開かせ、ひいては、より豊かな未来を切り拓いていく人を育むことになると信じています。

## 3 大会の概要 -各活動の主な内容の紹介-

各活動の概要をお示しします。それぞれの内容や成果等については、次ページ以降をご覧ください。

### (1) 計7授業の公開と協議会

公開した授業は以下の通りです。

	校 園	領 域	授 業 者	題 材 名	授 業 会 場
A	保	鑑賞	石坂千恵子 (恵和保)	県立近代美術館で遊ぼう	近代美術館
B	小	鑑賞	金澤 健志 (堀之内小)	最も『へんてこりん』な作品はこれだ!	近代美術館 コレクション展示室
C	小	表現	堀 和宏 (阪之上小)	ヒカリ・デザイナー	造形大学 203 講義室
D	中	鑑賞	岡地 大輔 (宮内中)	わたしとあなたの描いたうごき ～動物画制作と加山又造展の鑑賞を通して～	近代美術館 企画展示室
E	中	表現	荒木 広明 (小千谷中)	モノクロームの世界 ～みんなで描く水墨画～	造形大学 デッサン室
F	高	表現	田中 幸男 (小千谷西高)	お絵かき伝言ゲーム：伝わるカタチから見えるもの	造形大学 102 講義室
G	小 中 高	表現	斉藤 博文 (見附西中) 佐藤 隆幸 (関原中) 外山 高宏 (裏館小)	異学年集団インスタレーション	千秋が原ふるさとの森 アトリウム

以上のように、幼保から1授業、小・中学校から各2授業(表現・鑑賞)、高校から1授業の授業公開を行いました。鑑賞領域の授業では、県立近代美術館を直接利用させていただきました。また、小・中・高による異学年集団を形成して、造形的なコミュニケーションを促しインスタレーションの制作活動を行いました。会場として長岡造形大学や近代美術館を活用したり、校種を超えた授業を組んだりと、大会テーマの『HIRAKU』のごとく、開かれた教育活動を探り求めた授業公開となりました。

### (2) 造形五・十の市(長岡リリックホール)

図工・美術教育に特に志を高くもつ県下の教員たちが、それぞれの実践を、ポスターセッション形式で提供し、参会者と共に意見交流を行いました。長岡市の「五・十の市」になぞらえて、この企画を『造形五・十の市』と名付けました。上越、下越地域からも計10名の発表者を募ることができました。協力いただき貴重な実践を提供くださった皆様に心より感謝申し上げます。

### (3) 奥村高明様によるご講演(長岡リリックホール)

聖徳大学教授の奥村高明様からご講演をいただきました。奥村様はとにかく子供の実際の姿を大切にされている先生で、当日の全ての授業を取り上げられ、その時の子供の事実を根拠にしてお話しされました。子供のわずかな変化おも見逃さない鋭い観察眼に感動させられました。また、新学習指導要領に関して、軽妙な切り口をもって分かりやすく説明していただきました。どの内容も説得力があり参観者の心を引き付けて放しませんでした。

### (4) 新潟県立代美術館「加山又造展」鑑賞

昼休みには新潟県立近代美術館で開催されている『加山又造展』を鑑賞することもできました。美術館への入館料が参加費に含まれていることも当研究会の「売り」の一つでした。ほとんどの参加者が美術館鑑賞を行っていました。

### (5) 中越教育美術展特別賞作品展

平成28年度の中越教育美術展の特別賞作品50点を長岡リリックホールのロビーに展示し、参会者の皆様から見ていただきました。

■【造形活動；A】(鑑賞／保育園)

新潟県美術教育研究大会に参加して



石坂 千恵子 (長岡・恵和保)

当園は、自然環境豊かな場所にあり、日常保育も広い園庭の中で自然と触れ合う野外保育を通し、環境教育を実践しています。

園庭で草花や虫を観察し、日々変化する雲や風の音を体感し、「みつめ、かかわり」遊びながら、時には体を使って表現したり、絵を描いたりするなどの活動に取り組んでいます。

今回、県美大会での公開授業「鑑賞」を、コーディネーターの宇賀田先生の御指導をいただき担当する事となりました。

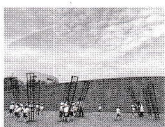


子供たちが見た事、感じた事を友達と話し合い、全感覚を使って自分なりの表現が楽しめるようにと野外の彫刻での授業を計画しましたが、当日は雨が降り、館内の彫刻での授業となりました。

子供たちは彫刻を見ながら、それぞれが全感覚で感じた事、思った事、想像した事を共感しながら話し合い、彫刻の「まねっこ」をグループになり表現する事ができました。彫刻を通じて友達や作品ともつながる事ができたように思えます。道具はなくとも体で表現しながら、友達と一緒にできた事を喜び、創造する事の楽しさを学びました。私たちは、子供たちの活動する姿から、様々な事を考えさせられました。

夏の県美大会が終わってから今までに、様々な表現活動を行ってきました。天気の良い日に近代美術館に出掛け、野外に設置してある彫刻で「まねっこ」したり、いつも歌っている歌を大きな紙に絵で表現したり、又、その歌を体で表現してみたり。友達同士で考えを出し合い、お互いを認め合っの活動は、大会のテーマである「HIRAKU」～かかわり つながり みつめる～ そのものと感じています。

今回、県美大会に参加させていただいて、子供たちの創造力の大きさに喜びを感じました。大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



◆【協議会；A】コーディネーター／宇賀田和雄 (近代美術館) 記録／飯塚 悟美 (恵和保)

○協議のまとめ

一かかわり一

- ・鑑賞後、感じたことを子供同士で自由に発言し、他の人の意見も聞き共感し、そして形にしていく過程が見られた。創造していくことで意見が形になった。
- ・一人で表現するのも良いが、他の子と協力しての表現活動がとても良い。
- ・自分たちがしたことを認めてもらい、自信へとつながっている。



一つながり一

- ・障害のあるなし、年齢にかかわらず全感覚を働かすということを他者と共感していた。
- ・授業へつながる普段の保育で、みんなが一つのテーマに取り組んでいる。雨が山から川へ、そして海を目指すことなど野外保育の中で様々な発見や表現につながっている。
- ・幼少期から美術館を身近に感じられるのは、とても良い。
- ・鑑賞の中での発言で、自分の生活につながるというストーリーを考える発想の自由が良かった。

一みつめる一

- ・彫刻作品の題名や説明をあえてせず子供たちや見る人のイメージや自由表現を大切にすると感じ、改めて自由でいいのだと感じ、美術館を身近に感じた。
- ・子供の見立てにその場の状況が影響することに気付くことのできる保育者の視点、物の見方を学びたい。
- ・「最後に目を閉じて、見た作品を心に残す」という所に惹かれた。

○総括



美術館は、びっくりの「び」。知らないところで見たことのない物に出逢える場でもある。

今日は、美術館にある作品と子供たちそれぞれがかかわることに意味があった。よく観てみた、みんなで観られて良かったなと思える授業にしようとして今日は、特別のものになった。

今日の授業を通して、美術館の作品が単なる置物ではなく芸術作品でもなく、子供たちにとってかかわり合う意味のあるものになり、保育者にとって美術館は、子供たちと気軽に足を運び、未知の物とつながれる場所になったら良いと思う。

■【造形活動；B】(鑑賞／小学校)

最も『へんてこりん』な作品はこれだ！



金澤 健志 (魚沼・堀之内小)

図画工作の授業で、鑑賞と表現を関連付けて展開してきた。鑑賞が表現のヒントとなり、表現できた思いを語る。語り合うことが想像力を豊かにし、造形的な見方や考え方を広げ、深めることにつながると考える。見つけたこと、感じたことを語り合う場として、県立近代美術館のコレクション展「奇想(へんてこりん)のたくらみ」を鑑賞した。美術館を訪れた経験の少ない4年生児童は、多様な作品群に興味がわいた。

美術館での鑑賞活動は、児童に多くの刺激を与える。表現の多様性を味わい、思いを表す自分なりの方法に自信をもつことが自らを「ひらく」ことであるとらえ、本実践を行った。

○まとめ

当校では日頃から、友達の話を聞くこと、本音で交流することに力を入れ、学級づくりに取り組んでいる。今回は美術館で興味をもった作品へ積極的にかかわり、作品と自分、友達と自分との共通点や相違点をテーマに話し合った。本物の鑑賞を通じて印象的だったこと、友達との意見から感じ取ったことを大切に発言やワークシートへの記入が多く見られた。鑑賞を通じた本音での交流により、作品や友達とつながった実感をもつことができるよう、今後も実践を重ねる。

自分の表現に自信をもてない児童には、「へんてこりん」が大きな自信をもたせてくれた。ユニークなアイデアが想像力を豊かにすること、自分なりに解釈できた達成感を、参加したどの児童も感じていた。多様な価値観を認め合えることが、自らを「ひらく」こととして表れた。



美術館での鑑賞の楽しさを味わう経験を積ませたい。本物を鑑賞することが発想や構想に与える効果を認識し、美術館での鑑賞を推進していきたい。

◆【協議会；B】コーディネーター／佐々木 潤 (日越小)

記録／中村 幸恵 (富貴亀小)

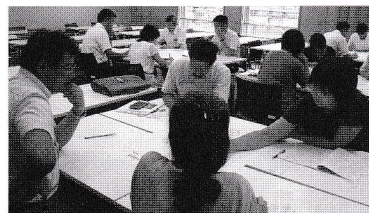
○質疑応答



- ・鑑賞作品5点を選んだ理由→下見で授業者が心惹かれたものと、学芸員からのアドバイスをもとに選択した。
- ・5点を取り扱った順番の意図→意見の出やすそうなものからだんだんハードルを上げた。動線も考慮した。
- ・5点に決めた理由→その数が適切な数と思った。

- ・ユニーク・分かる・好きという物差しを与えた理由→「へんてこりん」=「ユニーク」と捉えている。変わっている、意味不明という意味だけではなく、「分かる」「好き」という物さしがあるといいと思った。
- ・学芸員を巻き込んで展開するという授業を考えなかったのか→自分でやりたいという気持ちが強かったので、作品の意図や時代背景などを詳しく話してもらうようなことはしなかった。学芸員からも、「作品から子供が思うことを大切にしてください」と言われた。

- ・ランキングは比較するのにいい方法だが、「うみのうた」を選んだ意図と、うまくいったところは何か→対比させると見方が深まると考えたが、周囲の人と話せても、全体で発表する段ではうまく引き出せなかったの、ラリーにしていればよかった。



○まとめ

質疑応答の後「ワールドカフェ形式」で行われたグループ協議では、活発な意見交換が行われた。最後にコーディネーターが、「見方は多様でいい」「みんなOK」という鑑賞授業の流れが多くなってきた中、あえて「絞る」形の授業は新鮮だった。アクティブラーニングの重要性が言われている中、「ランキングを決める」という「しぼり」の中で鑑賞することにより、交流・広がり・深まりが生まれるという、提案性のある授業であった、とまとめた。

■【造形活動；C】(表現/小学校)



ヒカリ・デザイナー

堀 和宏 (長岡・阪之上小)

○授業の実際

(1) 表現意欲の高まりを促す、題材構成の工夫

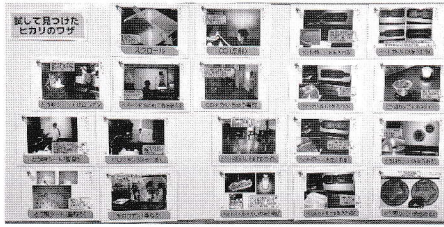
様々な材料を組み合わせて光り方を試すことができるように、光と光を通す材料を組み合わせ、光り方、色、明るさ、影の形などを意図的に変化させて楽しむ場を設定した。材料や用具と主体的にかかわったり試したりしたことで表現意欲を高め、思いや願いをもち続けて表現する姿が見られた。



(2) 自分たちの表したいイメージについて、試しながら話し合う活動の組織

グループで表したいイメージについて話し合い、試しながらイメージをふくらませたり、構想を具体的にしたりする活動を組織した。

思い付いたことや見いだした方法を出し合ったり、試しながら話し合ったりする中で、イメージを表すための新たな表現方法を見いだしていく姿が見られた。



(3) 見いだした表現方法を生かしてつくり進める場の設定

表したいイメージに合うように、見いだした方法を組み合わせ、つくり進める場を設定した。表したいイメージに合うように、光り方、色、明るさ、影の形などを意図的に変化させて表現しようとする姿や、発想・構想を繰り返しながら、よりよい表現を求めて表現し続ける姿が見られた。



◆【協議会；C】コーディネーター/津端 朝宏 (山古志小) 記録/夏井 了照 (名木野小)

○質疑応答

- ・グループ8人は、どのように決めたのか。→本来は、意図的な編成にすべきだが、特別な事情で参加が希望制になっているので、そうはしていない。
- ・テーマ設定の様子は？→子供たちから、テーマを決めて作りたいという意見が出てきた。教師が、もう少しテーマを具体的にしていくと、目標や課題などが明確になって良かったかもしれない。
- ・指導者にとって、ファッションショーのゴールのイメージは、どの班が近かったのか。→どの班も少し違っている部分もあるが、花火、四季のグループのイメージが近いかもしれない。服を光で変化、服装が瞬時に変化という点が、光でファッションショーならではのものであると考えている。また、床にペットボトルなど、周辺の飾りつけをしたカラフルグループもファッションショーの雰囲気を作っていた点で、そこに近かった。

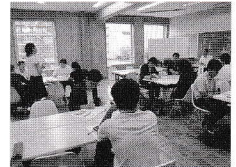


○協議① 子供たちの場の設定が良かったか。

- ・OHPは使い方が簡単である。写しながら、話をしたり、グループで一緒に作業ができたりするのが良い。
- ・Tさんにとって、場の設定が大変役立っていた。ペットボトルの水が波に見え、「先生、海だ!」と呼んだ。最終的にはうまくいかなかったのか、振り返りに「次回はペットボトルで波を表現したい」と書いていた。

○協議② ファッションショーという設定が良かったか。

- ・ファッションショーというテーマであると、個々にイメージが違う。ヒカリ・デザイナーというテーマは良かった。1分動画という感じで自由に作ったり、アニメーションにしたりする表現も良いのではないかと。
- ・子供たちが、グループで工夫しながら動きを入れたりして、とても楽しそうに活動していたのが良かった。



■【造形活動；D】(鑑賞/中学校)



県美大会を終えて

岡地 大輔 (長岡・宮内中)

今回の授業は美術部員1年生を対象としたが、彼らには大会テーマである「HIRAKU」が必要であると常々感じていた。他校の生徒との共同作業や対話、加山又造の作品と出会い、深く作品世界に入っていく体験を通して、美術作品と「かわり」、同年代の他者と「つながり」、自身の表現をより深く「みつめる」機会をもてた。その後、美術部員たちの変化として、アニメの表現へのこだわりがなくなり、より工夫のある表現が増えてきたように思う。また、作品の講評会でも、話す言葉が作者の気持ち、作品の内面へ興味に移ってきたように感じる。また、生徒だけでなく、私自身も今回の授業を準備していく中で、新しい出会いや刺激を少なからず受けた。近代美術館の学芸員の方々と打ち合わせをし、指導案にご意見をいただいたり、



実際の加山又造展の会場を見て回りながら鑑賞時の生徒の位置を決定したりと、手厚くフォローしていただいた。他にも教材用の撮影のために山古志で実際に闘牛を見たり、宮内中学校と越路中学校、2つの美術部合同で活動するなど、初めてのことばかりだった。こういった普段の仕事の中では得られない体験を通して、これまでの自分の授業を見つめ直し、改善すべき点を見つめる視点をもつことができた。

さらに、長野県で行われた全国造形研究大会で、今回の実践を発表する機会をいただいたことも貴重な体験となった。その際、他県の研究発表の中で、個人としての授業ではなく、研究会がチームとして一体となり、研究に取り組んでいる姿を見た。地域とかかわりながら、単発でなく数年先まで見通し、長いスパンでの目標をもって取り組む体制を確立しようとしていた。その様子を見て、自分自身ももっと他とかかわり、ひらいていく必要があると感じた。



◆【協議会；D】コーディネーター/村山 裕之 (近代美術館) 記録/田村 晃夫 (三条第二中)

○協議会の抜粋



- ・普段なかなか話せない子供もいるなかで、グループワークの際リーダーがよく意見を引き出していた。リーダーが持っていた「話し合いのヒント」(指令書)がよく生きて働いていた。
- ・美術館での本物と向き合う経験はよい。このあとどう落とし込むか。→作品を見るときにこういう方法があるというツールとして使えたらよい。また、自分の絵がおもしろくなっていくようにそれぞれがなったらいいかと考える。
- ・主体的に意見を言えるために、「なんでそうなったか自分の考えも書けるといいね」と先生の言葉がけが適切であった。
- ・子供たちの意見とその根拠を言葉にしてみることはあらためて大事だと思った。アイスブレイキングや用具にパステルを用いたことがよく生きていた。
- ・今回の加山又造の三作品を選んだ理由は。→今回美術館との協働で、加山又造に授業者自身かかわっていく中でこれしかないと思った。場所的にもちょうどよい所に展示してあり、授業展開に生きて働くと考えた。
- コーディネーターより
  - ・対話型鑑賞の研修をさせていただいているが、現場ではどうされているか気になり参加した。今回の取組や姿勢から大変うまくされていることを感じた。
  - ・思いを言葉にすると、その思いがくっきりと立ち上がるが、それによって切り落とされる思いもある。そんな子供たちの思いも大切に、ニュートラルに受け止める先生の姿勢やそのような場をもつところがよかった。
  - ・対話型鑑賞に取り組んでいくことは、人間力を高める上でとてもいいと考える。



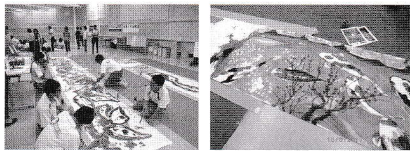
■【造形活動：E】(表現/中学校)



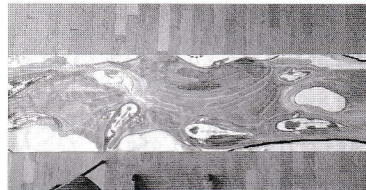
「協働することの価値に  
気付かせる授業」

荒木 広明 (小千谷中)

モノクロームの世界～みんなで描く水墨画～では、一人では成し得ない大作を、人と協力して創り上げることで、協働することの価値に気付かせることを目的として実践を行った。対象学級は、落ち着いた大要素直な学級であったが、仲間と協力して活動することで達成感や充実感を味わう機会を、まだ多くはもてていなかった。そこで、本実践を通じて、より効果的に達成感や充実感を味わえる工夫をし、仲間と協力して活動する機会を夏休み中に設定できたことは大変ありがたかった。



共同制作にあたって制作グループを3つ作った。一つは美術部、あとの二つは学級の男子と女子とし、それぞれのグループにリーダーを立てた。リーダーを中心に構想や構図を決定することで、制作中もリーダーを中心にどんな作品にするか、どこを分担するかなどを相談し、グループのメンバーがかかわり合いながら制作することとなった。大きな支持体それぞれが好きなように表現し、絡み合うことで、近くにいる生徒とのかかわりや、新しい表現が生み出されることを期待したのだが、生徒たちは見事に期待に応えてくれた。自分で見つけた技法(薄墨を撒いて池に降る雨のように見せる表現)を画面全体に施す生徒や、近くで制作する生徒を誘い分担する範囲を広げる生徒。担当した季節の季節感を表すモチーフを提案し合い、同じものを互いに描き合う生徒の姿を見取ることができた。



出来上がった作品には各季節の様子が色濃く出ており、鑑賞の際にはリーダーの発表を聞いて納得している様子が見られた。グループごとのテーマを反映した大掛かりな作品を制作することはできたといえる。また、技能へのこだわりを捨てて、実質制作時間30分間で、7メートルの障子ロール紙いっぱいに作品を描けたことは成果の一つである。

制作全体を通じて常に他者とのかかわり続け、折り合いを付けながら

制作を進める活動はまさに協働であり、その活動の中で、各自が自分の持ち味を発揮している姿を見つけることができた。しかし、活動時間が少なかつたため、もっと描きたい、もう少し描きたいという作品への未練が残っている。活動に見合った適正な時間配分や、年間指導計画における、共同制作と個人制作の割合などを、新指導要領に照らして検討していく必要があると感じた。

◆【協議会：E】コーディネーター/野村 宏毅 (湯沢中)  
記録/高橋 淳一 (見附今町中)

○協議会の質疑の抜粋

▲技能面で何を生徒に身に付けさせたいのか。→リアルに描き込むことが全てではないことと、描いていない余白にも価値があることに気付かせたい。見方についても同じである。▲水墨画の魅力と伝えたいことは何か。→描いてあるところと描いていないところがあること。▲今までの学習では、何を行ったか。→小学生の時、墨絵をやってきた。好きな題材を行い「にじみ」「ぼかし」を習得した。

○グループ協議～3グループに分かれ協議した。

1「かかわり」

- (1) 主体的にかかわる手立てとして、①一人一役の部分、②つなげる作業、③まとめるテーマが考えられる。
- (2) やったことがない素材やテーマを取り上げたり、地域素材を活用したりする。→苦手意識がなく、どの子も知っているもの、見たことがあるもの、描きやすく、バリエーションが出る。

2「つながり」

- (1) 表現・鑑賞の授業においての問題点；▲意見交換・交流の時間確保。どこに焦点を合わせてつながりをもたせるか。▲個々の制作がメインになっており、他者とのかかわりがあまりない。▲地域らしさを生かした授業ができていない。▲鑑賞では、他者への遠慮が強く見られ消極的で、班活動の活性化に工夫が必要である。
- (2) つながるために必要なこと；自分の考えを充実させることと教師の働きかけが必要である。



3「みつめる」

- (1) 現状からみえる問題点；取組をしている際に他の人の価値に流されて、取組が浅いことがあることや本物の作品に触れていない。
- (2) 必要なものとして；①美術の授業時間だけでなく、「総合的な学習の時間」などを活用する。(美術館や専門家の指導など、外に出ての学習をする。キャリア教育とも関連づける。) ②校内環境を整える。(校内の掲示物を充実させたり、作品展を行ったりする。県立近代美術館の出張美術館の活用。)

■【造形活動：F】(表現/高等学校)



公開授業を振り返って

田中 幸男 (小千谷西高)

今回の授業実践は10数年前に教育実習生の指導からスタートしたものです。最初はこちらも生徒もドキドキしながら1時間を過ごした記憶があります。その授業の実施後に予想していない言葉が聞かれました。「この授業で〇〇さんと高校に入って初めて話げできた。」というのです。3年生でした。美術の授業ではモチーフを観察したり、表現の方法を考えたり、静かにモノと対峙し、作品を完成に近づけることに多くの時間を割きます。しかし時には賑やかにものごとを考え、他者とのつながりを意識する実践があってもいいのかもしれないと思いました。生徒たちの中には大なり小なり、自分だけのシェクターがあり、中には他者との交流を避けたがる者もいます。一定のルールの中で安心して取り組む。表現という行為を通して他者とつながる。授業という場で自分の表現を提示し、他者の表現を受け入れ比較する。それらが新たな自己の発見へとつながるのではないかと思います。今回の県美大会では1～3年の高校生に加え、急遽2名の先生方にも参加していただきました。ご協力いただきありがとうございます。今後の指導に生かしていきたいと思っています。



◆【協議会：F】コーディネーター/北村 和則 (中越高)  
記録/中條 由美 (上越総合技術高)

○協議会の質疑応答の抜粋

・それをやることでそのような面の上達は見られるのか。→物体の軸の認識や外見の本質・属性をいかにピックアップして伝えるかが大事であろう。「かかわり」という部分で、一人一人かかわる、モチーフともかかわる、クロッキーは線の表現なので、この方法だと骨格や立体感などまでとらえにくい、時間制限があるゆえ、大胆で積極的な表現になる。

・「つながり」のテーマからみると、「相手を責めない」ことが学級開きのハンカチ落としに似ているが、

- ①この授業の後で人間関係の変化は起きるのか。
- ②ポスターなどを作る際に、よりそぎ落としてメッセージを発信すべきと思うが、最低限これだけは伝えなくては、といった力は身につくのか。情報の選択とイメージの集約化に役立っているか。→①アイズブレイクにはなっている。人間関係にかかわると思う。②履修の流れにつながってはいくだろう。

○大会テーマに沿ってのまとめ

主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)に近い面として、伝言ゲームでつながり、描いたものを見て次の課題として自分を見つめる。そして単発ではなく、他とのつながりが生じることによって可能性がある題材になり、またこれを出発点とした造形活動の動機付けに使えるのではないかと考える。

作品を見終わった後も学ぶことがあると思うので、作品を描いて、見て、得た知識をその後に生かすことができると、もっと理解が増すのではないだろうか。生徒個人的にも相互間の中でもモチベーションの高まりが期待できる題材であった。



■【造形活動：G】(表現/小・中・高)



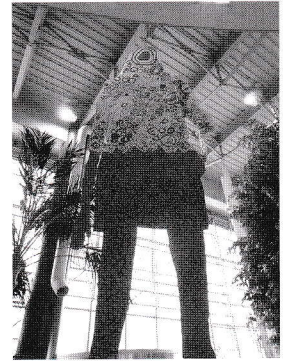
### 小学生から大学生で 身長10mの人を3人つくってみた

齊藤 博文 (見附・西中)

県美大会で昨年に引き続き異学年集団によるインスタレーションを担当しました。今年の舞台は近代美術館隣のアトリウムで、吹き抜けの天井高は11メートル。上から空間を見下ろすと、床に並ぶ大きな熱帯植物も草みたいに見える、自分が巨人になったような感覚を覚えました。そこで、この天井高を利用して、大きな人などをつくったら面白いだろうな、と考えました。事前に長岡商業美術部+小千谷西・六日町・堀之内各高校連合軍に諮ると、10メートルの人を3人作り、巨大な猫や魚も加えることに。



そして前日、大学生(去年プレ大会の時中心となった長生が長岡造形大に進学した人たち)と高校生グループが集まり、人のポーズや配置を考えました。簡単に決



まるかと思いきや、考えこむこと2時間…。悩みに悩んで数やポーズ・置き方を決定しました。

研究会当日は、小中学生が合流して約3時間で形を切り抜き、色を塗り、大空間に吊しました。

が、なにせ身長10メートル、おまけに巨大な魚や猫もつくるし時間が短い…。高校生がリーダーとなり、最初「あーでもない、こーでもない」とわいわい打ち合わせると、あとは夢中でひたすらつくる、つくる…。全員アドレナリンがガンガン出ていたと思います。結果、後半は黙々とした時間が多くなりました。

インスタレーションは制作時にコミュニケーションが自然ととれるのですが、作業量が膨大で「会話」が少なくなったのが反省点です。しかし、互いの制作の様子を見合い、異年齢同士がペアやトリオとなり、アドバイスし合って工夫していったところに価値があったと強く感じました。そして、できあがった「異空間」を見上げたときの全員の満足そうな顔・顔・顔…。感想を交換すると、やはりインスタレーションやワークショップのよさが分かりました。教室では味わえない面白さがあったと思います。



### 「造形五・十の市」を終えて

恩田 康一 (見附・南中)

○概要

造形五・十の市は、大会テーマ「HIRAKU ～かかわり つながり みつめる～」のもと、次の点に力を入れて取り組みました。

- ・造形教育にかかわる先生方の題材の構想、展開、指導の工夫点などを展示・発表する場とする。
- ・展示を見ながら、子供たちの「かかわり つながり みつめる」を具現する題材や指導の在り方などについて語り合える場をつくる。
- ・「これはどうやったの」「そんなやり方をしているのか」「他の人はどう思っているの」など、ボードを見た先生が他の先生方と造形教育に関する会話を始めるきっかけにする。

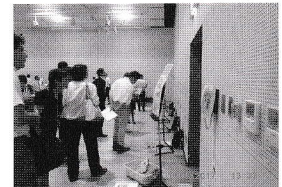
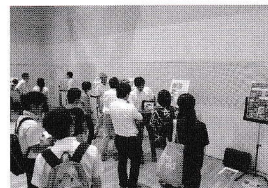
このことに賛同していただいた県内の28名の図工美術の先生方から29提案を発表していただきました。

提案発表者からは工夫を凝らした分かりやすいボードを作成していただきました。生徒作品や制作に使う材料などの展示もありました。表現をする子供たちが、様々な「ひと・もの・こと」に出会い、生き生きと表現している様子が伝わり、充実した展示・発表となったと思います。

また、参加者の皆様も興味深く発表を聴き、交流を深めており、お陰さまで盛況のうちに企画を終えることができました。



提案発表と交流の仕方を従来の協議会形式から変えることで、授業実践や造形教育そのものを新たな角度から捉えることができたのではないかと思います。また、県内の先生方が集い語り合い、造形教育の輪が大きくなったと感じることができました。

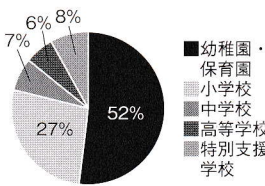


# 第31回 新潟県美術教育研究大会中越大会を終えて

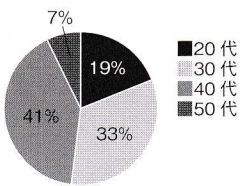


研究局長 永井 毅人

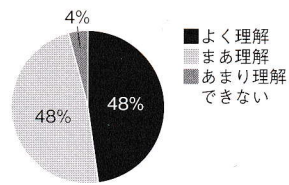
参加者の校種別割合



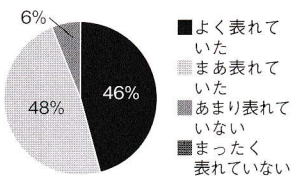
参加者の年代別割合



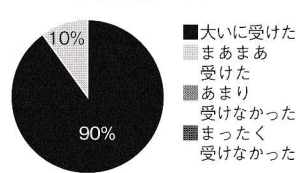
大会テーマの理解度



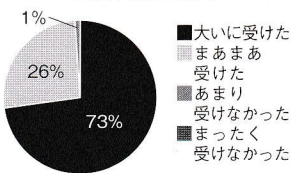
公開授業・保育に大会テーマを具現する子供の姿が表れていたか



講演会にどの程度刺激を受けたか



造形五・十の市にどの程度刺激を受けたか



まずもって、2年間積み重ねて参りました研究を150名に迫る参会の皆様と共に深められたことに感謝いたします。皆様、ご多用の中、ありがとうございます。また、新潟県立近代美術館、長岡造形大学という素晴らしい環境の整う会場を得て、それぞれの校種ごとの子供たち、異年齢の子供たちが大会テーマに迫る活動を展開したり、私たち図工・美術教師が互いに心を開き、実践や考えを交流し合うことで、互いのつながりをもったりすることができました。関係の皆様のご高配にも心より御礼申し上げます。

以下、参会の皆様から記入いただきました大会アンケートの結果と合わせて、本大会を振り返ります。

参加者の年代別構成では、40歳代以上の方が70%以上を占めました。ベテランから多くの参加を得て頼もしかったです。しかし、これからの教育界を背負う若い年代の先生方に、もっと図工・美術教育の魅力と重要性をアピールしていく必要があるようにも思いました。

大会テーマの理解については、90%以上の方から理解できると評価いただきました。一方で、自由記述に「全体発表の中に、具体例や児童・生徒の反応等が伝わる動画を」とのご指摘をいただきました。研究局として恒常的に実践研修を深めるためにも、地区の日常的な実践記録を定期的に集約・保管し、発表にも生かしていけるようなシステムづくりを今後考えていきたいと思っております。

公開授業は、幼保1、小・中学校各2、高等学校1、小～高校の異学年集団1の計7つを公開しました。大会会場とした美術館と造形大学の環境を生かした授業や、学校所在地の地域素材を題材とした授業など、各授業者が大会テーマを具現する魅力ある授業を目指し、前向きに取り組んできました。それが、夏休み中にもかかわらず多くの子供の希望参加を得、参会の皆様からの高評価にもつながると自負しています。それぞれの協議会で、公開された授業を基に、「かわり」を拡充するための授業・保育の環境づくりについて、子供が考えたり感じ取ったりした造形的な思いを汲み取り他の子供へつなげていく授業者・保育者の感受性・受容性と手腕についてなど、大会テーマの副題「かわり つながり みつめる」学びの様相を活性化させるアイデアを語り合うことができました。

「造形五・十の市」は、長岡伝統の市のように、自分が大切にしてきた実践をアットホームに交流し合い、参加者が実践アイデアや今後の実践意欲のお土産を持ち帰るといったコンセプトで実施しました。今回は、下越・上越からも出店参加いただいたことで、本大会テーマの具現を目指した実践が一層多彩となり、参会の皆様からプレ大会よりも一層高い評価を得ました。貴重な実践を提供くださり、プレゼンの御協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

奥村高明先生の講演は、100%の高評価で、改めて触れるまでもなく示唆に富む素晴らしい内容でした。公開授業を意味付けてくださりながら、子供の実際の姿を通して、これからの学力と図工・美術の大きな可能性についてお話しいただいたことは、私たち図工・美術教師に大きな希望をもたせてくださいました。

最後に、自由記述に「興味深い発表内容が盛りだくさんであったために、内容を深めるための時間ももっとほしかった」というご指摘がありました。プレ大会後、「子供の姿で語り合いたい」「造形五・十の市で心開いた教師同士つながり合いたい」とやりたいことが増え、時間的に厳しい状況になってしまったことは否めません。しかし、多くの参会の皆様から「刺激をもらった」とアンケートに回答されています。本大会で受けた刺激が、その後の皆様の研修の出発点となり、県内各地でそれぞれの実践の中で深めてくださっていることを、今、楽しい気持ちで想像しています。

## <自由記述より抜粋>

- ・新しい試みをした授業公開が全協議会で設定されており、大変得ることの多い研究会だった。
- ・授業の切り口、全体の組み立て方など大変よい刺激になった。
- ・美術館へ行くことが好きだが、今回そのような気持ちで参加できた。公開授業、協議会、造形五・十の市、体験型美術館へ来ているような楽しい時間だった。五・十の市は、発表者が気さくに話してくれるし、自分の興味のある所で実物などを見ながら話を聞けたので、たくさん刺激をもらった。
- ・授業も造形五・十の市も、たくさん実践を一堂に見る機会があった。同じ一つの教材でも、ねらいの設定、発問の仕方などで学びが深まることを改めて感じた。自分の授業にも生かしていきたい。
- ・造形五・十の市は、すぐに授業でできそうなことがあってよかった。それを授業で使おうと思いつくひらめきに脱帽。
- ・造形五・十の市は、発表者と間近で話を交えられ、自分も頑張ろうという気持ちになった。夏休み後の授業が楽しみなになった。
- ・全体発表でもう少し具体的な例、児童生徒の反応が伝わるような動画が盛り込まれるとよいと思った。
- ・奥村先生の講演は、現場のニーズにタイムリーに答えていた。
- ・講演終盤の子供と保育士や教師とのかかわりの動画が印象的。子供の造形活動を支援する中で、子供を輝かせる大人の在り方が大切だと改めて感じた。
- ・学力が変わってきていること、よく勉強していこうと思う。言語化の重要性も再認識することができた。
- ・新しい企画や新鮮な切り込みのある授業が盛りだくさんで興味深かったが、正直、協議会も造形五・十の市も、もう少し深める時間がほしいと思った。

## 講演「新学習指導要領における図工美術教育」（要旨）

聖徳大学教授 奥村 高明 様



センター試験では時代背景や社会を基にした問題が出題されるため、事実的な知識だけでは対応できない。小学生や20代前半と50代では学力観ではなく、学力が違ってきている。50歳以上は事実的な知識の世代であり、20代前半では概念的知識の世代で、概念的知識は事実的な知識よりも知識の応用ができる。

新学習指導要領における知識とは、事実的な知識だけでなく相互に関連付けられ「生きて働く知識」である。「何年にこうした出来事が起きた」よりは、「なぜ起こったか」「どんな影響を及ぼしたか」、社会における場面で活用できる概念としていくことが必要である。つまり、意味理解を伴った知識、転移性の高いネットワーク化された知識が今の子供たちの知識であり、三つの柱のうちの一つである。

図工・美術の知識においては、「共通事項を学習の支えとして、形や色などの働きについて実感を行いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにする」「芸術に関する歴史や文化的意義を表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解する」ことが要求されている。教師は事実的な知識の捉えで教えるのではなく、意味理解を伴った知識、転移性の高いネットワーク化した構造的な知識として取り扱わなければならない。表現と鑑賞しかない学習活動の中で、自分との関わりで獲得しなければ応用できない。一方的に教え込むことは事実的な知識を事実的な知識として教えているだけであるため、子供たちの学力には適応できない。

人間の能力は何万年も変わっていない。使うべきところとか高いところが変わっている。「概念的操作をする知能」が上がるために、知能指数は10年で3ポイント上がる（フリン効果）。理由としてはテレビ、写真など視覚文化の発達、教育の発展などが考えられるが、資質や能力が高くなったわけではない。

図工の指定校の学力は上がる。図工では必要な物だけを取り出して論理的に組み立てない限り、絵も工作も鑑賞もできない。他の教科と違って最後までつくらせ、オリジナルを要求することで、ものすごく厳しい学習となっていることなどが要因だ。

メタ分析では、「学力が高い子ほどアートの授業を受けている」「アートの授業を受けている子ほど学力が高い」という「相関がある」ことが報告されている。音楽、美術など芸術教育に参加している生徒は、おおむね学力、学習意欲、出席率が高いということが報告されているが、因果は証明できていない。図工も算数・数学も総合的に力を発揮し、例えば空間認知など、その一部分が連携していると十分考えられる。

因果の証明にはエビデンスが必要で、これからは「どんな能力を伸ばしたか」「効果があった指導は何か」「どのような能力が伸びたか」などが問われ、パフォーマンス評価やルーブリックなど、いろいろな評価方法でやることが求められる。図工・美術で育んだ学力を妥当性のあるエビデンスでしっかりと示す必要がある。問われるのは、三つの柱について、具体的に想定してエビデンスを出しているかということである。

大分県では、美術館が地域や学校と連携して「地域の色をテーマとした教科融合型学習」をやっている。ルーブリックによるパフォーマンス評価や語彙力の変容の分析などでエビデンスを出している。今回の学習指導要領で、全教科が同じ能力の育成を目指して取り組むということで、カリキュラムマネジメントはすごく意味がある。

「主体的・対話的で深い学び」を、もう少し具体的にする必要はある。その授業は本当に子供一人一人の主体性を保障しているか。対話的って、どのくらいの種類の対話を考えているか。深い学びって言っているが、探るように取り組んでいるか。もっと自分のバロメーターをよく考え直し、そういう仕掛けを取り入れる必要がある。

「鎌倉幕府」が事実的だったら、概念的なのは「武家政権の移行が起きた要件」だ。創造的な問いの例としては、「アールブリュットという枠組みは必要か」。「事実的な問い」から「概念的な問い」、さらに「創造的な問い」へと本質的な問いに発展させるべきだ。鑑賞教育が美術作品の鑑賞で終わって

いないか。作品の背景まで、中学校・高校は行くべきだ。そのために、研究所としての美術館をどんどん使うといい。

授業は本質的な問いに向かって、育成したい力を明確にしながら論理的に構築しなければならない。「どこで：学ぶ対象」「何を：学ぶねらい」「どのように：学ぶ方法」が大事なポイントであるため、一人一人の授業の中で考えていくことが重要である。授業は、思いどおりに進む「ためしてガッテン」より、子供たちと一緒に歩きながらやっていく「ブラ・タモリ」だろう。

これからの図画工作は、主体的に学習したとか、対話的に学習したではなく、色の組合せや濃淡の効果を理解してつくったのか、奥行きが生まれるように材料を配置したのか、作品に関する文脈的な知識を活用して美術作品を鑑賞したのか、ねらいをはっきりさせて取り組んで、子供たちに自覚させるようにすることが求められる。

新学習指導要領では「どう学んだら子供たちの身に付くか」「どんな力が付くか」までを明確にしたことが改訂の特徴であり、「何を学ぶか」という内容の見直しにとどまらず、「何ができるのか」を見据えて改善したことが大きなポイントである。目標については、全教科共通で、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、活動を通して三つの柱の資質・能力を育成するようになっている。四観点が三つの柱に変わっている。図画工作では、「発想・構想」の中に「造形遊び」と「絵や立体・工作」の発想・構想、「技能」の箱の中に「造形遊び」と「絵や立体・工作」の技能を入れた。鑑賞では「言語活動」を「内容の取扱い」に出すことで、表現においても言語活動が大事であることを示した。学習指導要領の構造が資質・能力ベースになっている。評価の観点は三つになると思われるが、9月・10月ぐらいからの話合いで決まる。

子供は、子供だけではかけがえのない存在にはなれない。「あなたが大切だ」と言ってくれる存在が必要だ。つまり、かけがえのないのは、今ここに座っている皆さんだ。子供たちをかけがえのない存在にできる、一人一人が主体的で対話的で深い学びをする存在である子供たちを、そういう子供たちにできるのは先生たちだ。

## 講師 プロフィール

## 奥村 高明 (オクムラ タカアキ) 様

- 所属：聖徳大学 児童学部学部長 児童学科教授
- 学位：芸術学博士（筑波大学）「美術教育における相互行為分析の視座」
- 専門分野・研究内容：図画工作教育、美術教育、鑑賞教育、美術館教育
- 所属学会等：大学美術教育学会会員 美科教育学会理事  
日本美術教育連合役員 日本教材備品協会理事
- 著書論文「小学校学習指導要領解説 図画工作編」編集；文部科学省 日本文教出版  
「SCOPE アートポストカード集」「エウレカ アートゲームボックス」  
監修 美術出版サービスセンター
- 単著「子どもの絵の見方～子どもの世界を鑑賞するまなざし～」東洋館
- 単著「造形活動における相互行為分析の視座（2）  
—相互行為分析の手がかりとしての視線—」日本美術教育連合
- 監訳「美術館活用術 ～鑑賞教育の手引き～」美術出版
- 単著「エグゼクティブは美術館に集う ～脳力を覚醒する美術鑑賞～」光村図書

他 多数

# 中越教職員美術展2017～第23回～

●会期／平成29年12月20日(水)～24日(日)  
 ●会場／長岡市美術センター(長岡市立中央図書館2階)  
 ●主催／新潟県中越美術教育研究会

●後援／長岡市教育委員会 新潟日報社  
 一般財団法人新潟県教職員厚生財団  
 公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名	出品者
1	朝焼け妙高	F50 池上 秀敏 元教職員
2	雪走る	F20 結城 和廣 長岡造形大学
3	雪緩む	F50 桑原 收 元教職員
4	ソナタ	F50 石川 吉郎 大石福祉会こぼと
5	北のセメント工場	F100 水落 裕子 元教職員
6	魚野川河岸待春	F100 藤岡 一之 元教職員
7	セーヌ川とボンヌフ	F100 阿部 勝則 十日町総合高等学校
8	あおむけ	M30 小沼智恵利 元教職員
9	視天	F60 上坂 義則 元教職員
10	Another world	40×40 藤本 市郎 刈羽村立刈羽中学校
11	釈尊涅槃	F20 松井 謙太 新潟大学教育学部附属長岡小学校
12	想い出の街角 2017	90×90 小林 学 長岡市立黒条小学校
13	歯車	40×50 中嶋 均 元教職員
14	城壁	F10 高井 博行 出雲崎高等学校
15	景 2017-1	F20 田中 大志 長岡市中之島中学校
16	景 2017-2	F20 南雲 学 小千谷市立総合支援学校
17	裸婦	40×52 高橋 淳一 見附市立今町中学校
18	裸婦	52×40 三上 祥司 元教職員
19	竹林	F10 鈴木 雅詩 栃尾高等学校
20	晴れの日の午後	P50 鈴木 雅詩 栃尾高等学校
21	初秋の散歩	F20 恩田 康一 見附市立南中学校
22	ハッターリー	B2 金澤 健志 魚沼市立堀之内小学校
23	つらがまえ	F30 鱧淵紀美子 新潟大学教育学部附属長岡中学校
24	花馬祭	F31 丸岡 昭子 長岡市立太田中学校
25	美術室から見える八海山	18×32 濁川 徳一 長岡市立十日町小学校
26	ランド・ジャット島の日曜日の午前	F10 中村 信 見附高等学校
27	円柱に寄せる想い	F10
28	座る少年	F10
29	Nさん	F10
30	静寂	F20
31	朝の妙高山	F50
32	連峰: After image	38×96
33	波と町:Maze	96×96

No.	題名	出品者
34	記念写真	18×31×33 堀田 正 元教職員
35	SUN ～10の層～	90×90 田村 敏宏 長岡市立西中学校
36	つめたい一月	51×40 鈴木明恵美 加茂高等学校
37	月が見えない	51×40 田中美沙子 長岡市立西中学校
38	枯	36×53 他 佐藤久美子 小千谷市立千田小学校
39	雅	39×44 溝口 敏美 長岡高等学校
40	コスモ1	115×90 中村 信 見附高等学校
41	コスモ2	115×90
42	House	80×70×60
43	P.P.犬	60×60×20
44	堆積層1	140×140 田中 幸男 小千谷西高等学校
45	堆積層2	140×140 齊藤 博文 見附市立西中学校
46	バレリーナ	30×25×25 村山 裕之 県立近代美術館
47	想	30×25×30 清田 夏樹 長岡市立小国中学校
48	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	直径15×2 五十嵐由美子 長岡市立上組小学校
49	魚の小皿	10×18×2 黒井美智子 長岡市立川崎小学校
50	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	直径15×2 石黒 裕子 長岡市立旭岡中学校
51	今日のしあわせ	30×30 上坂 義則 元教職員
52	薬師如来	27×15×13 柴野ひさ子 元教職員
53	希望	60×30×30 北村 和則 中越高等学校
54	遠い明日	30×30×30
55	ねこちゃん	7×7×10 岡地 大輔 長岡市立宮内中学校
56	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	15×30×25 中川 純子 新潟大学教育学部附属長岡小学校
57	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	25×25×30 比後 慎一 長岡市立刈谷田中学校
58	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	35×35×20 立川 厚生 長岡市立上組小学校
59	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	50×70×50 山之内知行 長岡市立太田小学校
60	長岡市三島郡美術教育研究会 作品	40×30×45 齊藤 博文 見附市立西中学校
61	ピラルクー	90×50×40 田村 晃夫 三条市立第二中学校
62	残像	60×15×35 霜島 健二 加茂高等学校
63	再生 2017-1	30×30×95
64	再生 2017-2	30×30×90

## 『中越教職員美術展2017～第23回～』について

中越教職員美術展 実行委員長 下村 芳明

会期：平成29年12月20日(水)～24日(日)

会場：長岡市美術センター

例年と違い12月開催という事で、どのくらいの方から足を運んでいただけるか心配しておりましたが、来場者総数は昨年度を上回り、この数年の中で最高の598名となりました。また、来館者の方からは、「先生方の才能の豊かさに驚くばかりです。年末の忙しい日々の中でゆっくり観させていただき、いい時間を過ごさせていただきました。(30代女性)」 「日々の多忙な教職生活の中で、このように素晴らしい力作を作成されたことに敬意を表します。作者がどんな思いをもって作成されたかを考えつつ、楽しく鑑賞しました。(50代女性)」 「退職された皆様の充実ぶりもうかがえ嬉しくなりました。現職の皆さんも忙しい中、ご苦労様でした。(60代男

性)」等、たくさんの方々からうれしいメッセージをいただきました。常連の来館者の方々も増え、教美展の魅力が広がっていることに感謝しています。

今年度の出品者数は47名で出品点数は64点。小・中・高の現職の先生方だけでなく、OBの先輩方の変わらぬ大作、力作、長岡市三島郡美術教育研究会の実技研修会に参加された方々の魅力的な作品も出品していただきました。来館者の皆様に大きな感動を与え、充実した教美展となりました。本当にありがとうございました。

最後に、教美展が素晴らしいものになったのも、出品していただいた皆様、展示や搬出にご協力いただいた皆様、並びに多大なるご協力をいただいた葵屋画材店様のお陰であります。心から感謝申し上げます。